

新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名：双ヶ岡の庵

建物写真



建物概要

行政区：京都市右京区

建築年：平成26年9月

敷地面積：(任意) 231.45 m²

建築面積：(任意)

延べ面積：(任意) 148.23 m²

構造：木造

階数：2階建て

本体価格：(任意)

建築主：(任意) T様

設計者：空間工房用舎行蔵一級建築士事務所

施工者：株式会社竹内工務店

設計コンセプト・ポイント

京都市右京区に建築された、二世帯住宅の中規模のお住まいです。

外観は瓦屋根の大壁作り、窓には木格子を組み込む伝統的な様式を踏まえて設計されました。

屋根は平入の形で、大屋根と下屋屋根とガレージ・門が一体となって、大きな屋根の流れを形作り、整った外観となっています。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

指針1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



玄関スペース

- 隣地の状況を踏まえて、窓などの開口部の位置を決める(指針 1-2)
 - ・住宅地の視線が気にならないよう、隣地の窓の配置と干渉しないようにずらして窓の配置をしている。
- 玄関スペースを多機能に活用できるようにする(指針 1-3)
 - ・玄関スペースを広く取り、多機能に対応(車いすの対応も)できるようにしている。

指針2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



- 壁面を適切に分節して圧迫感を軽減する(指針 2-2)
 - ・柱と目隠しの格子の多用により遮蔽と抜けとの双方を確保し、空間を広く感じさせる工夫をしている。
- 設備機器をファサード側に設置しないなど、配置場所で工夫する(指針 2-3)
 - ・キッチン設備は通路側から遮蔽し、又目隠しの格子にて隠している。

指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



奥庭と縁側

- 風や光、自然が感じられる庭を設ける(指針 3-1)
 - 風が通り抜けるよう、庭の設置場所で工夫する(指針 3-1, 3-3)
 - ・奥庭に面したリビングに縁側を設け、庭が眺められるようにしている。
 - ・庭に面した大きな開口をいかし、建物内を風が通り抜ける設計にしている。
 - ・吹き抜け上部に開閉式トップライトを設け、建物内に自然光を取り入れる工夫をしています。
 - 落葉樹等、季節を感じられる植物を植える(指針 3-1)
 - ・庭に隣との間に目隠し屏を背景に築山と季節に咲く花を植栽している。

※掲載されている建築事例は、新町家パートナー事業者が考える京町家の知恵を取り入れた住まいの事例です。

■庭のメンテナンス空間を設ける(指針 3-1)

・手入れに十分な空間をとっている。

■季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける(指針 3-2)

・玄関ホールの壁コーナーに飾り棚を設けている。

■伝統的なしつらい空間を設ける(指針 3-2)

・二間続きの和室に押し入れ、仏壇を設け、襖には京唐紙を使用している。和室掃出し窓内側には、障子を設けている。

指針 4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



リビング

■肌に直接触れる部分に自然素材を使う(指針 4-2)

・建具枠や窓枠などは地域産杉材を使用している。

■経年変化を楽しめる工夫をする(指針 4-3)

・地域産材の杉、ヒノキを使用して、梁などは化粧部分として現しで使用している。

■経年変化も味になる素材を使う(指針 4-3)

・床には無垢の木のフローリングを張りオイル仕上げとし、色の変化を楽しむ工夫をしている。

■引き戸で部屋を仕切る(指針 4-4)

・和室や、2階ホールの空間は引き戸を開ければ、広さを変えて使うことができます。

■再活用にも耐えうる良質な素材を使ったり、寸法に配慮する(指針 4-5)

・モジュールは、910で統一されている。

・階段板は無垢のタモ材を使用。

指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



和室

■和瓦葺きとする(指針 5-1)

- ・屋根は瓦葺きです。
- ・平入の屋根は一文字瓦を使用している。

■木格子、木製建具を採用する(指針 5-1)

- ・建物正面の開口部には、木格子を組み込みました。
- ・玄関建具、門建具は木製建具を使用。

■畳を採用する(指針 5-2)

■障子を採用する(指針 5-2)

- ・個室に畳敷き(天然い草の畳表)の和室を取り入れ、窓には障子を採用しています。